

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～景気回復の持続力の評価など、徐々に変化する民間機関の成長率予測について総括しています。

2010/2/24 「民間調査機関の経済見通し（2010年2月）～10年前半に一旦減速との見方は変わらないが、「二番底」懸念は大きく後退～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～米国の金融政策におけるいわゆる「出口戦略」の動きについて分析しています。

2010/2/19 「FRB公定歩合引き上げの影響～過剰流動性の吸収は市場には負のインパクト～」

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～注目が高まっているソブリン・リスク問題のわが国への示唆について述べています。

2010/2/19 「ソブリン・リスクは対岸の火事か～日本・米国・欧州でリスク顕在化は異なる～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～なぜGDP成長率では公表後の大幅な修正が相次ぐのか。その背景と問題点を浮き彫りにします。

2010/2/22 「改訂が繰り返されるGDP統計～必要となる速報値の推計方法見直しと利用者の意識改革～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～課題が表面化した欧州経済、再び足取りを速めるアジア経済の今後を予測しています。

2010/2/26 「2010～2011年のユーロ圏経済見通し～財政危機を乗り越えた後も、欧州経済の足取りは鈍い～」

2010/2/19 「アジア（中国・インド・NIEs・ASEAN5）短・中期経済見通し（2010年2月版）」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

ギリシャ神話に登場するアキレスは俊足で知られる。ある日、アキレスは亀と競走した。足の遅い亀はハンデをもらって、アキレスのスタートラインA地点よりゴールに近いB地点からスタートした。走り出したアキレスがA地点とB地点の間まで来ると、亀はその間にB地点から少しだけゴール寄りに進んでいた。そこでアキレスは再び亀の位置との中間点まで走った。すると亀はさらに少しだけ前に進んでいる。これを続けたとしても、アキレスは亀に永遠に追いつけないことになってしまう。

今、放漫な財政運営を続けて財政危機に陥った加盟国ギリシャにEUがどう対処するかが注目されている。ギリシャの資金繰りのタイムリミットは近づいているが、過去に財政赤字を過少計上していた国を安易に救済することには、加盟国の国民から反対の声が上がっている。そこでEUは、まずは期限を切ってギリシャ自身の手で再建を進めさせ、健全化策の実施とその進捗を見守る姿勢をとった。

うかつに対処してユーロ圏の信任を損なうことは避けなければならないが、放っておくと財政不安がEUの他の加盟国に広がるおそれがある。支援の期待がかけられるEUの大国ドイツとフランス。大胆な財政改革を唱えたものの、その遂行能力に大きな疑問符が付けられた当のギリシャ。歩みの大きく違う国が並走するユーロの深刻な問題が浮かび上がっている。不意に「アキレスと亀」を思い出した。 (H. U)